

(別添)

次期森林計画についての森林管理署の検討方向

— 目 次 —

1. 現行計画の概要
 - (1) 国有林野の管理経営に関する基本的な事項
 - (2) 国有林野の維持及び保存に関する事項
 - (3) 林産物の供給に関する事項
 - (4) 国民の参加による森林の整備に関する事項
2. 次期計画の検討方向
 - (1) 管理経営上の課題
 - (2) 計画内容

大分森林管理署

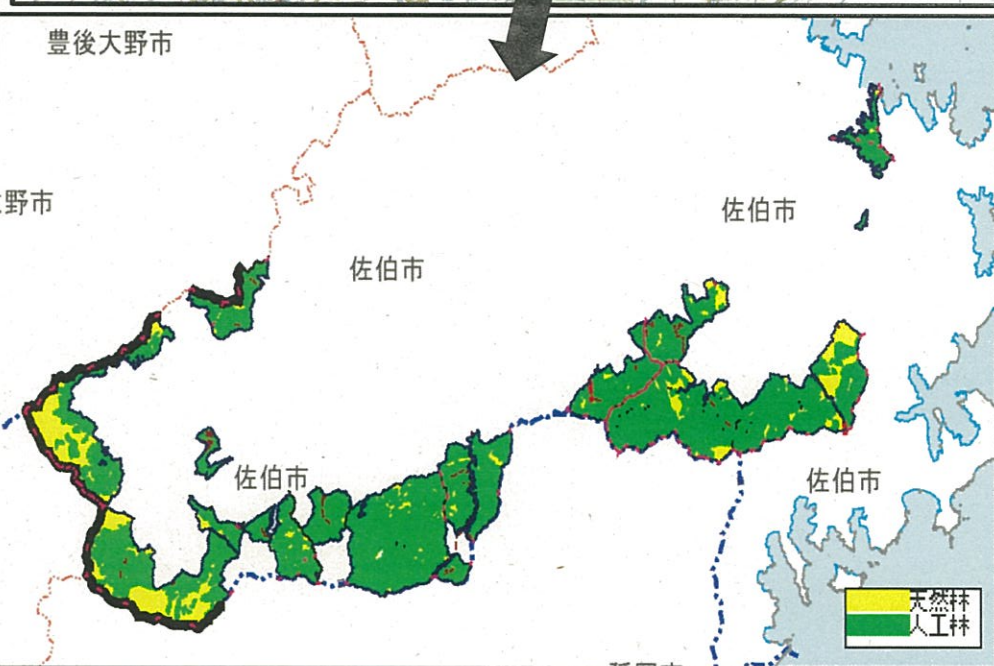
傾山からの眺望 (平成30年4月撮影)

・大分南部森林計画の対象は、県南部に位置する佐伯市全域に位置し、番匠川地区、赤松地区、藤川内地区及び傾山地区の国有林野13,799haとなっています。

・計画区内の森林資源の状況は人工林が7,722ha(約56%)、天然林が5,712ha(約41%)、その他365haとなっています。

・森林の種類は普通林が319haで2%で、制限林が13,480haで98%となっています。なお、制限林は全部が保安林で、内98%が水源かん養保安林となっており、佐伯市及び延岡市の水がめとして重要な役割を担っています。

・計画区はスギ・ヒノキ等の人工林が多くを占めているが、傾山地区の傾山周辺はモミ・ツガ等の天然林となっており、祖母傾国定公園に指定されるとともに、祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域に設定されています。



(1) 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

① 機能類型に応じた管理経営

国有林野の管理経営に関する基本計画に即して、開かれた「国民の森林」に向けた取組を推進するため、個々の国有林野を重点的に発揮すべき機能に応じて、5つの機能類型に区分し、それぞれの発揮すべき機能に応じて管理経営を行っています。

機能類型区分(面積)	機能類型区分の考え方	目指すべき森林の姿
山地災害防止タイプ (1, 570ha)	山地災害の防止及び土壌保全機能の発揮を重視	根や表土の保全、下層植生の発達した森林
自然維持タイプ (1, 047ha)	原生的な森林生態系や希少な生物の成育・生息する森林など属地的な生物多様性保全機能の発揮を重視	良好な自然環境を保持する森林、希少な生物の育成・成育に適した森林
森林空間利用タイプ (0ha)	保健、レクリエーション、文化機能の発揮を重視	保健・文化・教育的利用の形態に応じた多様な森林
快適環境形成タイプ (0ha)	快適な環境の形成の機能を発揮を重視	騒音の低減や大気の浄化など、人の居住環境を良好な状態に保全する役割を持つ森林
水源涵養タイプ (11, 182ha)	水源の涵養の機能の発揮を重視第一とすべき森林	人工林の間伐や伐期の長期化、広葉樹の導入による育成複層林への誘導を図る森林であり、森林資源の有効利用にも配慮

② 流域管理システムの推進

県・市町村等との密接な連携を図るとともに、組織力・技術・資源を活用し、民有林経営の支援等に積極的に取り組めます。

林業技術向上のための現地研修会を実施しています。



平成28年度 森林作業道作設検討会を実施

民有林と協調した効率的な森林整備を推進しています。



平成29年度森林整備推進協定 運営会議（大分森林管理署会議室）

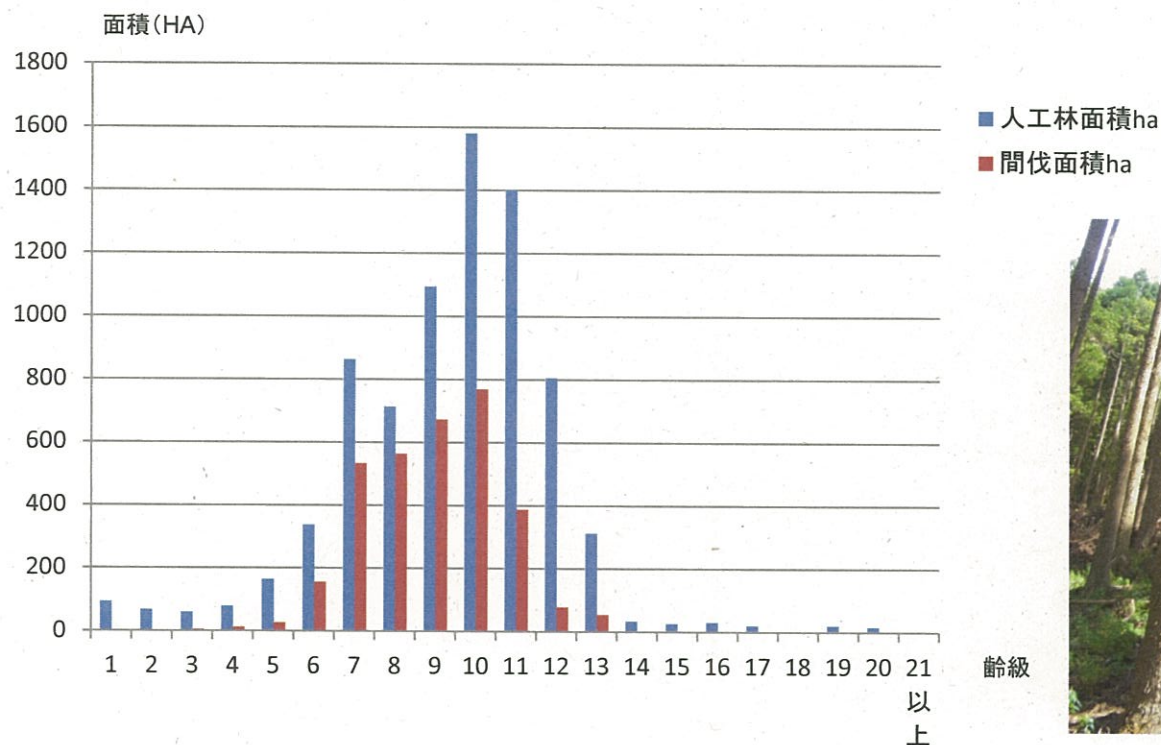
国有林内において、行政機関や林業事業者等の参加も得て、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト・高効率な作業システムに関する現地検討会を行い、民有林への技術の普及に取り組んでいます。

民有林と国有林が隣接する佐伯市傾山地域の森林に「森林共同施業団地」を設定し、関係者が連携して路網整備や森林整備を行い、スケールメリットを生かした作業の低コスト化や安定供給体制の強化に取り組んでいます。

③ 森林吸収源対策に向けた積極的な間伐の推進

本計画区の人工林の面積は7,722haで、間伐対象となる16年生から60年生までの人工林の面積は7,038ha（人工林面積の91%）です。

また、現行計画（H27年度～31年度）では間伐を約3,263ha計画しており、森林吸収源対策のためにも間伐を推進しています。



間伐を実施した人工林

注：1年齢級は1～5年生を表します。

④ 多様な森林の整備

間伐をはじめとした森林整備に積極的かつ着実に取り組むとともに、針広混交林化、複層林化、長伐期化などを通じて、多様で健全な森林の整備・保全を推進します。



現状(人工林)



針広混交林化





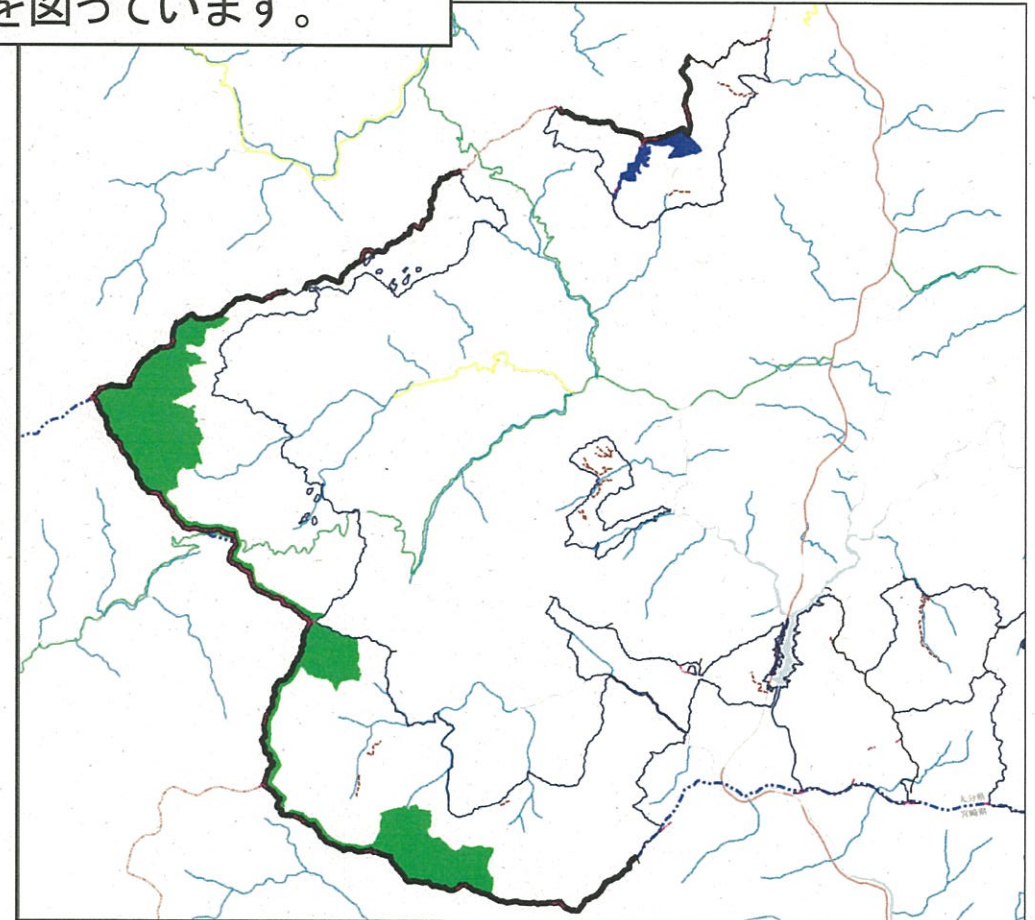
長伐期化された森林

(2) 国有林野の維持及び保存に関する事項

① 生物多様性の保全(保護林)

本計画区には貴重な天然林等が存在しており、これらについては保護林等を設定し、適切に保護・保全を図っています。

種類	名称	特徴等	面積 ha
森林生態系保護地域 	祖母山・傾山・大崩山周辺	冷温帯林に属し、モミ、ツガ、ブナ、ミズナラ等が高木層をなす原生的な状況を呈しており、非常に貴重なため。	710
希少個体群保護林 	柏山	日向アカマツ老齢天然林保存のため。	33



② 安全・安心の確保に向けた治山対策の推進

安全・安心の確保に向けた効率的な治山対策に取り組んでいます。



大分県佐伯市宇目切込地区は下流部に養魚場が存在し、溪流内から取水を行っているので水質に影響の少ない工法が求められ、更に地球温暖化防止や国産間伐材の利用推進などを考慮し、木製構造による床固工を実施しています。



大分県佐伯市の宇目地区等をはじめとする流域内で発生した山地災害箇所等について、谷止工等による早期復旧工事を実施しています。

(3) 林産物の供給に関する事項

① 高効率・低コストな作業システムの定着

伐採、造林等の事業の実施の効率化を図りつつ、健全な森林を整備するとともに、木材の需要動向や木材産業の状況等を的確に把握しつつ、国有林材の安定的な供給を推進しています。



集成材工場や合板工場、製材工場等の原材料となる木材を安定的に供給する「システム販売」を推進しています。



林業生産コストの削減を図るため、簡易で崩れにくい路網の整備を推進しています。

(4) 国民の参加による森林の整備に関する事項

① 国民参加の森林づくり

国有林野をフィールドとした国民参加の森林づくりを推進しています。

国民や企業の自主的な参加による森林の整備を推進します。

国有林野内への不法投棄に対して、ボランティアの協力をいただき、クリーン活動を行っています。



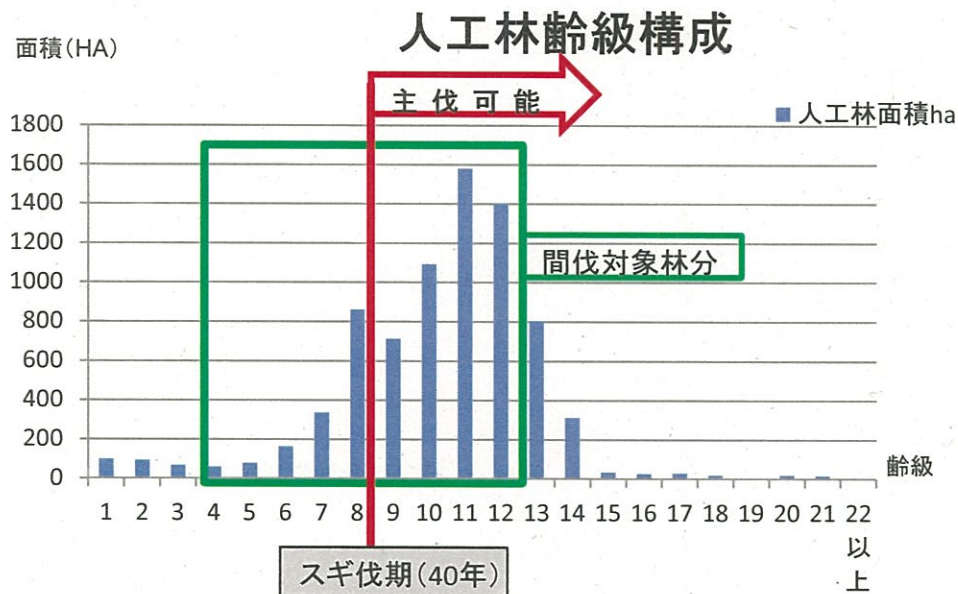
国有林では林業体験活動の場を提供し、森林環境教育の推進に努めています。



2 次期計画の検討方向

(1) 管理経営上の課題

- ・本計画区の国有林野が有する水源かん養機能や山地災害防止機能等の公益的機能の発揮を高めていく必要があります。
- ・次期計画においても間伐対象となる16年生から60年生の人工林の割合は80%と依然として多くを占めており、健全な森林づくりのほか森林吸収源対策の上からも間伐を推進する必要があります。また、伐期を迎えた主伐可能林分が多くなることから、計画的な間伐とともに主伐も導入し、主伐後の再造林を適確に行う必要があります。



- ・森林病虫害等に強い多様な森林の造成を立地条件に応じ推進していく必要があります。
- ・本計画区には各種保護林やレクリエーションの森を設定しており、これらの国有林野を適切に管理していく必要があります。
- ・国産材の安定供給を実現するため、生産事業のコスト縮減と生産性向上を進める必要があります。
- ・エネルギー原料としての利用等新たなニーズに応えるため、これまで利用してこなかった林地残材等の利用を進めていく必要があります。
- ・国民が安全・安心に暮らせる環境づくりに向けて、治山対策や森林整備に取り組む必要があります。



シカによる立木剥皮と下草の食害



防護ネット効果(手前:食害地、奥:未食害地)

(2) 計画内容

- ・公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を行うとの方針の下、多様で健全な森林の整備・保全を行うほか、森林吸収源対策として引き続き間伐を推進する方向です。
- ・貴重な植物種の保護を目的とする保護林については、適切に管理する方向です。
- ・社会貢献活動として森林づくりに参加・協力したいとする企業等の要請に応えるため、「分収林」制度を活用して、森林整備を推進する方向です。
- ・生産事業のコスト縮減と生産性の向上を図るため、簡易で壊れにくい路網の整備を引き続き推進する方向です。
また、低コスト造林事業の構築を図るため、コンテナ苗の植栽にも取り組む方向です。
- ・これまで利用されてこなかった林地残材等の有効利用を図るため、これらを含む国産材のシステム販売に努める方向です。
- ・民有林と連携して効果的な治山事業の実施に取り組むとともに、地域住民と協働して災害を減らす対策を進める方向です。